

渋沢青淵記念財団竜門社編纂

# 渋沢栄一傳記資料

## 第七十七卷

渋沢栄一伝記資料刊行会刊

(一八四〇(天保十一年)―一九三二(昭和六年))

1917  
大正六年五月十四日

是日栄一、東京ヨ発シ長野地方ニ赴キ、小諸・上

田・長野・松本・岡谷・上諏訪ノ各地ニ於テ講演  
ヲナシ、十九日帰京ス。

青淵先生演説速記集(一) 自大正六年三月 雨夜譚会本  
至大正七年十月

(財団竜門社所蔵)

(別筆)  
大正六年五月十五日於信州小諸

男爵渋沢栄一君講演速記

1 会長並ニ満堂ノ諸君、今日ハ当青年会ノ春季大会ヲ才開キニナリマス  
 2 ニ就イテ、私ニ参上致シテ一場ノ所感ヲ述ベルヤウニト云フ御相談ヲ  
 3 小山君ノ令息国太郎君カラ蒙ツテ居リマシテ、則チ今日ヲトシマシテ  
 4 参上致シテ満堂諸君ト御目ニ懸ル機会ヲ得マシタノデアリマス、斯カ  
 5 ル盛大な会ニ参上致シマシタコトハ誠ニ初メテマゴザイマスガ、私ハ  
 6 此信濃ノ御国ニハ古イ因ミヲ持ツテ居リマシテ、当小諸町ニモ青年ノ  
 7 比ヒ度々参リマシタ事ノゴザイマス、曾遊ノ地ト云フヨリモ、寧口第  
 8 二ノ故郷ト云フ程ニ思フノデゴザイマス、併シソレハ六十年ノ以前ノ  
 9 事デゴザイマスカラ、殆ド面目ヲ一変シマシテ、今朝モ小山君ノ家デ  
 10 古書ノ手鑑ヲ拜見致シマシタ時ニ百人一首ガゴザイマシタガ、「松モ  
 11 昔ノ友ナラナクニ」ト云フ言葉ガアリマシタガ、私ノ今日ノ境遇ハ殆  
 12 ド昔ノオ友達ハ松スラ面影ガ無イト思フ位デゴザイマス、況ヤ人ニ於  
 13 テオヤ、併シ右様ナ古イ因ミヲ有ツテ居リマスル御当地デゴザイマス  
 14 デ、縦令初メテ御目ニ懸ル皆様ニモ尚且ツ古イ御親ミヲ有ツタ心ヲ以  
 15 テ此会见ヲ得ルノヲ欣ブノデゴザイマス、昔旅行スル際ニハ、私ハ農

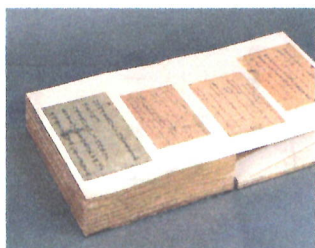
当時七十七歳

小山邦太郎については冊子「風穴と系のまちこもろ物語」七ページを参照。

曾遊リ前に行った

面目リかたち

手鑑ニ手本



十五歳頃から

木内芳軒

漢詩人

文政10年(一八二七年)

明治5年10月12日

信濃国佐久郡下果村

(現・佐久市伴野下果)

藍商人として信濃を訪

れた浪沢は、何度か芳軒

の許に逗留し、剣を教え

る一方で芳軒から学問

を教わった。

1 業ノ暇ニ藍玉ヲ商売シテ居リマシテ、御当地ニモ、猶南佐久ニモ、若クハ小県ニモ各地方ヲ巡廻致シマシテ、取引上ノ友達モ沢山ゴザイマシタガ、多少文学ヲ好ミマシタ為ニ、千曲川ノ南辺デゴザイマセウカ下県ト云フ所ニ木内芳軒ト云フ人ガアリマシタ、既ニ故人ニナラレマシタガ、此才人ハ詩作ヲ巧ミニ為サイマシテ、其遺稿モ尚存シテ居ルヤウデゴザイマス、是等ハ最モ記憶ニ留ツテ居ルノ御一人デゴザイマス、其他其当時御交リヲ厚フシマシタオ方ハ或ハ取引上ニ、或ハ其他ニ多クゴザイマスケレドモ、前ニモ申ス通り、風景モ土地モ其儘存シテ居リマスガ、其人ハ今ヤ亡シ、老人モ或ル場合ニハ長生ヲシタノヲ喜ブト共ニ、又古イ友達ヲ亡シマシタノヲ悲シムト云フ場合モナイデモゴザイマセヌ、此信濃ノ国ハ、其頃ヨリシテ一体ノ気風ガ至ツテ純朴デ、且ツ他ノ地方ニ比較シマスルト、一切ノ風体ガ高尚デアツテ、悉クサウト申上ルコトハ出来ナイカモ知リマセヌガ、概シテ貧富ノ懸隔ノ少イ土地ダト云フコトヲ承知シテ居リマスル、今日ニ於テモ尚其旧態ヲ存シテ居ルヤウニ拜見サレマスノハ、誠ニ理想的ノ地方ト申上ゲテモ宜カラウト思ヒマス、勿論一国ノ富ハ其国民富殖ノ大ナルニ帰スルノデスカラ、悉ク大ナル富ヲ成ス事方望マ欲シイ訳デアリマスケレドモ、其住民ノ多数悉ク皆富ム訳ニハ往カス、其結果或ル地方ニ大ナル富者ガアルト、其近傍ニハ必ず又是ニ反スル貧シイ者ガアツテ貧富平均ヲ得ヌト云フコトハ兎角地方ノ慣ヒデアリマス、其甚ダシキ懸隔ガ進デ往キマスト、結局ソレハ健康体デアリマセヌノデ、人ノ身体ニシテモ或ル一部分ガ如何ニモ発達シテ、或ル部分ガ極ク貧弱デ

アツタナラバ、片輪デアルト同様ニ、余リ兼併ノ弊ガ強ク進ミマスルト、必ず其國ノ健全ヲ失フヤウニナル、故ニ理想的ノ地方ト云フナラバ、成ル可ク貧富ノ平均スルヤウニアリタイ、当長野県ト申上ゲテ宜イカ、全体ハ知リマセヌガ、少クモ佐久・小県地方ナドハ、私昔年旅行スル際ニ左様ナ有様ダト云フコトヲ拜見シテ、今モ尚其旧態ヲ存シテ居ルコトヲ賀ブノデゴザイマスル、地方ノ物産トシテハ種々ナル物ガ数ヘラレマスルガ、特ニ養蚕ニ属スル、或ハ蚕児ノ種、若クハ蚕糸此等ハモウ第一ニ指フ折ルベキ物デ、長野県下ノ蚕糸ハ殆ド日本ノ全ノ冠タル、否東洋ニ冠タル——日本ノ製糸産額ガ殆ド世界ノ半額以上ニ相成ツテ居ル、其中ノ主タルモノハ長野県ニ在ル、尤モ諏訪地方ノ製糸家ガ唯単ニ其地方ノミナラズ、各地ニ出張所ヲ設ケテ、其地方ノ繭ヲ買取り、製糸スルノガ尚諏訪ノ名ニ依ツテ輸出サル、カモ知リマセヌケレドモ、兎ニ角ニ日本ノ最モ特産物ト申ス可キ蚕糸ニ於テハ、頗ル優等ノ地位ヲ占メテ居ルノハ当県デアルト申シテ好イノデアリマス、小諸町ノ如キモ昨日純水館ノ製糸場ヲ極ク概略拜見シマシタガ、実ニ総テノ設備ガ好ク届イテ、予テ承リ居ツタ名ニ相副フテ、敬服致シテ拜見ヲ致シマシタデアリマス、併シ此蚕糸ノ事業ハマダ単ニ今日ヲ以テ満足ノ位置ト思ハマデ好カラウト考ヘマス、是カラ先ニ進デ往ク余地ハ頗ル多イヤウニ思ヒマス、殊ニ亞米利加ハ絹物ノ需要ノ多イ国柄デ、近頃ハ殊ニ其富ノ増スト同時ニ其需要モ亦頗ル繁盛ニ相成ツテ居ルヤウニゴザイマス、尤モ原料ノ供給地ハ唯単ニ日本許リヲ以テ喜デ居ル訳ニハ往カヌ、隣リ国即チ支那ノ養蚕ハ中々ニ悔リ難

五九六

兼併ニ合わせてひとつに

「百人一首第三十四」

藤原 興風

たれをかも

しる人にせむ

高砂の

松もむかしの

友ならなくに

(歌意)

こんなにも歳を取ってしまつて、わたくしはいつた誰を自分の友としようか。あの高砂の松も古いものではあるが、もともと人間ではなし、わたしの昔からの友でもないのだから。

(意訳)

昔からの親しい友も、一人死に二人死にして、もう自分だけになつてしまった。いつた自分は誰を友として、この寂しい老年を過ごしていけば良いのだろうか。

ああ、高砂の松もすいぶん長い年月を経て年老いている。あの松を友としようか。しかし、松は人間ではない。今さら、それを友達にするわけにもいかないのだ。



1 イカヲ有ツテ居リマス、第一ニ桑園ノ地味ガ頗ル宜シイ、又繭ノ見掛  
 2 ケハ日本ノ品ト較ベマスルト見劣リガ致スヤウデアリマスケレドモ、  
 3 糸ノ質ガ大変宜シイサウデアリマス、昨日モ純水館デ白イノ、黄ノ、  
 4 両種ノ青島ノ物ヲ一覽シマシタガ、業ニ既ニ日本ノヨリハ糸ノ質ニ於  
 5 テハ上位ニ居ルト云フオ話シデゴザイマシタ、併シ青島ハ支那ニ於ケ  
 6 ル養蚕地ノ最モ優良ノ場所チヤゴザイマセヌ、養蚕地ノ極ク主ナル所  
 7 ハ江蘇・<sup>(浙)</sup> 撰江ガ最モ盛デゴザイマス、私ハ四年前ニ支那ノ旅行ヲ致シ  
 8 マシテ、彼ノ地ノ桑園ヲ視テ實ニ<sup>あなごがた</sup> 悔リ難イト云フ感ジヲ持チマシテ、  
 9 爾来支那ノ蚕業ニ対シテ、我が製糸家ハ最モ注目ス可キモノデアルト  
 10 云フ事ヲ、現ニ純水館主ノ小山君、又其令息ノ<sup>(邦)</sup> 国太郎君ニモ度々オ話  
 11 シヲシマシタケレドモ、其他ノ諫訪ノオ方、若クハ横浜ノ生糸ヲ取扱  
 12 ヒマスル委託販売商店、殊ニ蚕糸ニ対シテ大日本蚕糸会ト云フ一ツノ  
 13 法人団体ガ組ミ立テラレマシテ、其会頭ハ子爵清浦奎吾君ガ任ジテ居  
 14 ラレマスルガ、此会ニ向ツテモ頻リニ愚見ヲ呈シテ、今ヤ追々支那ノ  
 15 養蚕ニ対シテ御当地ノ方々、現ニ小山君ナドモ其御一人デアアル、諫訪  
 16 ニ在ル人、或ハ横浜ノ前ニ申シタ委託販売商店ナド種々今研究中デ  
 17 ゴザイマスデ、果シテ如何ナル方法ガ茲ニ<sup>あんしつ</sup> 案出サレマスカ存ジマセヌ  
 18 ガ、唯我レノミヲ以テ安ンゼズ、一步進デ支那地方ノ蚕糸ニ対シテモ  
 19 何分ノ経営ヲ為シテ、兩國ノ製糸ガ相反シ相衝突スルコトノナイヤウ  
 20 ニシテ、俱ニ<sup>とも</sup> 進ムヤウニサセタイト云フ考ヘヲ諸君ガ有ツテ居ラ  
 21 レマスル、私ハソレニ対シテ良イ智恵ヲ与ヘル事ハ出来マセヌケレド  
 22 モ支那ヲ一覽シテ来タト云フ縁故モアリマスシ、又従来蚕糸業ニ対シ

1 テハ學術上ノ智識ハ持ツテ居リマセヌケレドモ、実験上カラ申スト青  
 2 年ノ頃ニ蚕児ヲ養フ事ヲ努メマシタシ、壯年ニ至ツテハ製糸ニ対シテ  
 3 相当ニ力ヲ添ヘマシテ、昔風ノ坐繰取ノ糸デハ決シテ立派ナ糸ガ出来  
 4 ナイ、<sup>ヨーロッパ</sup> 欧羅巴・<sup>アメリカ</sup> 亜米利加ニ充分生糸ヲ販売スル事ハ出来ナイ、矢張り  
 5 等シク西洋式ノ製糸法ヲヤラネバ往カヌト云フノデ、明治三年ト覺ヘ  
 6 テ居リマス、富岡ノ製糸場ヲ、大蔵省ニ勤務中起サセマシテ、爾来機  
 7 械取ノ製糸ガ段々繁昌シテ今日ニ至ツタノデゴザイマスル、此等工業  
 8 ニ就キマシテモ<sup>いささ</sup> 聊カ微力ヲ入レタ積リデゴザイマス、更ニ銀行業者ト  
 9 相成ツテ、ソレ以来ハ今ノ飼育法トカ、製糸法トカノ、即チ農工ノ方  
 10 ハ考ヘマセヌケレドモ、今度ハ商ノ側カラ、蚕糸ニ対シテ相当ナ御力  
 11 添ヲ致シタノデゴザイマス、何故ナラバ、何如ニ<sup>いかに</sup> 農家デ充分ノ飼育ヲ  
 12 致シテ蚕児ガ出来上リマシテ繭ニナツテモ、工務ガ進デ之ヲ良イ生糸  
 13 ニシテ売出ス方法ガ出来ナケレバ、其農家ノ養蚕ガ発展スル訳ニハ参  
 14 リマセヌ、併シ<sup>たといえ</sup> 縦令製糸家ガ西洋式ノ製糸機械ヲ備ヘ付ケ、多数ノ繭  
 15 ヲ仕入レテ製糸ヲ致シマスト云フデモ、自然ニ出来ルモノデハナイ、  
 16 繭モ買ハネバナラズ、出来タ糸モ売ラネバナラズ、此売買ノ間ニハ第  
 17 一ニ必要ナモノハ金融デアリマス、此金融ガ此製糸ニ対シテ極ク簡便  
 18 ニ且ツ其割合ガ低廉ニ得ル事ガ出来マセネバ製糸事業ノ発展ハ出来ナ  
 19 イノデゴザイマス、茲ニ<sup>こゝに</sup> 至ルト商ノ勤メデアル、金融家ガ是ニ対シテ  
 20 貪ラズ疑ハズ、能ク信ジ、能ク取扱ツテ金融ヲ為サヌト、製糸家ノ事  
 21 業モ亦発展ヲ致シマセヌ、斯クノ如ク農工商ト相俟ツテ始メテ蚕糸事  
 22 業ガ完備ヲ致スノデゴザイマス、前ニモ申上マス通り、御当地ナドノ

坐繰り取り



機械製糸



丸萬製糸場(高橋平四郎)の海外向け広告



小諸の製糸業の開拓者、高橋平四郎は、富岡製糸場の創業時に設置主任の法沢栄一や場長の尾高惇忠から「繭買入取次」に任命され活躍した。また、小諸から94名の工女を富岡へ派遣した。



論語学而第一 6  
「子曰弟子入則孝」

子曰、弟子入則孝、出則弟、謹而信、汎愛衆而親仁、行有餘力、則以學文。

(読み)

子曰く、弟子、入りては則ち孝、出でては則ち弟、謹みて信あり、汎く(ひろく)衆を愛して仁に親しみ、行いて余力有らば、則ち以て文を學べ。

(釈文)

先師がいわれた。――年少者の修養の道は、家庭にあっては父母に孝養をつくし、世間に出ては長上に従順であることが、まず何よりも大切だ。この根本に出発して万事に言動を謹み、信義を守り、進んで広く衆人を愛し、とりわけ高徳の人に親しむがよい。そして、そうしたことの實踐にいそしみつつ、なお余力があるならば、詩書・礼・楽といったような學問に志すべきである。

下村湖人『現代訳論語』

(意訳)

君たち若者よ。年上には懐(なつ)け。手本となる仁者に出会うために。同世代や手下には嘘をつかず、意地悪をするな。以上ができれば十分で、勉強はそれが出来てからしなさい。クスの物が学んでも、大クズができるだけだ。

(小林澄光)

1 ノ希望、御注意ヲ斯ク為シタラ良カラウト云フコトヲ二・三箇条トシ  
2 テ、茲ニ申上ゲ試ミヤウト思フノデゴザイマス、独リ青年ト許リトハ  
3 申シマセメガ、総テ人ハト申シタイノデゴザイマス、併シ先ヅ人ノ初  
4 マリハ若イ人デアリマスカラ、人ハト云フ中ニ必要条件トシテハ何ウ  
5 シテモ青年ガ一番先ニ含マセラレルト云フコトヲ御理解ナサレタイ、  
6 人ハ如何ナル人デモ総テ相当ナル目的ガアルモノデス、希望ト云フモ  
7 ノハ何ウシテモナケレバナラヌモノデアアル、希望ナシノ人ト云フモノ  
8 ハ所謂睡生夢死ノ人ニナル、此希望ヲモ一ツ進メテ理想ヲ持ツ人ニナ  
9 ラネバ往カヌデス、理想ト云フ言葉ハ何ウモ私ハ聊カ漢学ヲ致シマシ  
10 タケレドモ、昔ノ論語ヤ孟子ニ見エマセヌ、併シ是ハ人ノ地位カラ自  
11 分ノ希望、色々ナ物ヲ組ミ立テ、斯クアリタイト云フ考案ヲ其所へ作  
12 ルノヲ、之ヲ概括シテ理想ト云フテ居ラウト思ヒマス、近頃出来タル  
13 「理想」ト云フ熟字デアリマス、併シ是ハ理想ト云フ熟字ヲ用キヌデ  
14 モ意志トカ、意トカ、若クハ希望トカ、目的トカ言フヤウナ文字ガ、  
15 即チ此理想ノ含マレテ居ル言葉デアリマス、凡ソ物心付テ世ニ立タウ  
16 ト云フニ就イテハ、何ウシテモ理想ト云フモノヲ持タヌト完全ナ生活  
17 ガ為シ得ラレヌヤウデゴザイマス、而シテ其理想ガ勿論人トシテ、殊  
18 ニ青年トシテ先ヅ第一ニ孔子ノ教訓シテアリマス通リ「弟子入則孝、出  
19 則弟、謹而信、汎愛衆而親仁、行有余力則以學文」是ガ即チ一ノ理想  
20 デアル、孝弟忠信ヲ以テ理想トシ、更ニ力ノ余ツタ時ハ相当アル趣味  
21 ヲ持テ、文ト云フ言葉ハ広イ意味デ、或ハ詩ヲ學ブノモ文デアアル、文  
22 章ヲ書クノモ文デアアル、又更ニ哲学ヲ攻究スルノモ文デアリマセウ、

或ハ物理化学ニ至テ種々學問的ノ研究モ或ル一部分ニハ文ヲ含ムト見  
マシテ宜カラウト思ヒマスル、デ如何ナル身分ニアリマシテモ、農業  
ニ在レ、商業ニ在レ、或ハ工業ニ在レ、又ハ或ル会社等ノ事務ニ従事  
スル場合、若クハ会社等ニ於ケル總テノ方面ニ於テ凡ソ自分ノ身ヲ立  
テルニ就イテ、是カラ先斯クシテ斯ウアリタイト云フ考ヘハ相当ナ程  
度ニ於テハ我ガ理想ト云フモノヲ有ツテ進ムガ、青年ガ身ヲ立ツテ往  
クニ就イテ必要条件ト迄私ハ申上ゲタイト思フノデアリマス、若シ是  
無クシテ唯成行ニノミ委シテ往クト云フ事ハ、即チ無目的ノ働キニナ  
リマスカラ、必ズヤ自分ノ發達ヲ為シ得ラレヌモノト申シテモ過言デ  
ハナカラウト考ヘマス、私自身ノ事ヲ茲ニオ話しスルモ甚ダ余談ノヤ  
ウニナリマスガ、私ハ青年ノ比ヒ自分ノ故郷ニ居リマス時ニハ、矢張  
リ農業ニ専ラカヲ尽シテ、自家ノ商売ヲ満足サセタイト云フノガ理想  
デゴザイマシタ、然ルニ此理想ガ変化シマシタノハ、世ノ中ノ已ムヲ  
得ザル時勢ガ私ノ理想ヲシテ変化セシメタト申シテモ好カラウト考ヘ  
マス、恰度幕府ノ末、外寇ノ起リ、政治ノ甚ダ宜シキヲ失ツタ有様デ  
アツテ、私共ノ如キ位置モナシ、學問モナシ、格別得タ処モアリマセ  
ヌケレドモ、所謂國ヲ憂フルノ觀念カラ遂ニ最初立テマシタ理想ガ変  
ジテ、所謂浪人社會ニ出テ世ノ弊ヲ救ハウト云フヤウナ氣ヲ起シマシ  
タ、併シ是ハ私ノ思ヒ違イデアリマシタガ、是モ矢張り理想ノ一ツデ  
ハアツタノデアリマス、理想ニ依ツテ進マントシタノデアリマス、遂  
ニ変化シテ、色々ニ変ツテ、明治六年ニハ復タ元ノ實業界ノ人ニ變化  
シマシテ、廻リ廻ツテ元ヘ戻ツタヤウナ有様デ、爾來四十年是非其事

五九九

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22

浪沢の尊皇攘夷思想  
浪沢一は二十三歳のとき、尊皇攘夷の思想に目覚め、分久三年(1863年)に共に従兄弟である尾高惇忠や浪沢喜作らと、高崎城を襲撃して武器を奪い、横濱外国人居留地を焼き討ちにしたのち長州藩と連携して幕府を倒すという計画を立てる。事前に藍を売った金を使って武器まで揃えたが、同じく従兄(惇忠の弟)の尾高長七郎の懸命な説得により中止した。

渋沢の社会福祉思想



渋沢栄一は三十五歳のとき、身寄りのない子どもや老人を養うための施設である東京市養育院を設立し、九十二歳の天寿をまっとうするまで、50年以上にわたり院長を務めた。

1 ヲ遂ゲタイト考ヘマシテ、敢テ遂ゲ得タモノトハ申サレマセヌケレド  
 2 モ、併シ自分ノ思フタ理想ガ稍達シ得タト存ジマスル為ニ、モウ既ニ  
 3 スク老衰シテ、実業界ニ充分生産殖利ニ一生ヲ全ク送ルモノデハナカ  
 4 ラウ、尚老後数年ノ間タリトモ、今度ハ何カ精神界ノ一班ニ、其改良  
 5 ニデモ力ヲ尽シタイト斯ウ云フ考ヘカラ、今日ハモウ残年甚ダ短ウハ  
 6 ゴザイマスルケレドモ、其理想ヲ以テ、是ハ殖レテ止ム迄ノ考ヘデ居  
 7 ルノデゴザイマス、私ハ銀行ヲ辞シマス時ニ、頻リニ皆ニ申シマシテ  
 8 或ル職責ハ辞表デ以テ罷メル事ガ出来ルケレドモ、**国民タル務メハ辞**  
 9 **表ヲ出ス事ガ出来ナイ**(拍手起ル)故ニ此満堂ノ諸君モ或ル仕事ニ就  
 10 イテハ、嫌ヤダト思ヘバ辞表ヲ出セマスガ、国民タル務メハ私ト同ジ  
 11 ヤウニ誰モ書面ヲ出シテ**国民ヲ止メルト云フコトハ御出来ニハナサラ**  
 12 **ナイ**、必ズ此事ヲ前提トシテ、斯ウ云フ時代ニ斯ウ云フ事ヲシテ往キ  
 13 タイ、或ル事ヲ云々タイト思ヒマシテモ、必ズ之ヲ遂ゲ得ルモノデ  
 14 モゴザイマセヌケレドモ、是非我ガ目的ヲ立テ其目的ニ依ツテ進テ往  
 15 クト云フ事ハ、殊ニ青年ノオ方々ノ世ニ処スルニ於テ甚ダ必要ナ、又  
 16 其世ニ処スルニ於テ便利ナモノデアル、斯ウ考ヘタガ斯ウナツタト云  
 17 フ事ハ、数年ノ間ニハ段々分ツテ来ルモノデゴザイマス、若シソレガ  
 18 分ラメナラバ、ソレハ或ハ己レノ志ガ変ジテ、立テタ目的通りヲ遂ゲ  
 19 スト云フコトデアレバ、是ハ決シテ其効果ヲ奏スルモノデハナイ、奈  
 20 何トナレバ効果ヲ奏セヌヤウニ自分デ為サルノデアルカラ、是ハ自分  
 21 ガ自分ノ目的ヲ棄テタ以上ハ決シテ其目的ガ達シ得ラレルモノデハア  
 22 リマセヌ、ケレドモ若シ之ヲ懸命ニ貫徹セシメタナラバ必ズ其効果ガ

六〇〇

見エルモノデアアル、木ヲ植エテ育テルノデモ、種子ヲ蒔イテ畑ヲ耕ス  
 ノデモ、矢張り是モ人ノ理想・目的ニ依ツテ其事ガ効ヲ奏シテ来ルノ  
 デアリマスカラ、大ト小ノ差ハゴザイマスケレドモ、人ニハ必ズ理想  
 ハナケレバナラヌモノデアアル、而シテ此理想ガ唯単ニ人タル者ハ自己  
 ノミノ利ヲ以テ理想トスルコトハ、事ニ依ルト却テ自ラ利益シ得ラレ  
 スモノデアアル、凡ソ人タル者ハ独リテ世ノ中ニ立ツモノデハナイ、必  
 ズ共同的ノ者デアアル、相群ヲ成シ、相共ニ達スルデナケレバ、決シテ  
 小サイ社会モ猶成リ立ツモノデアアリマセヌ、況ヤ大ナル国家ニ於テ  
 オヤ、マア極ク近い例ヲ申シマスルト、私ハ普断ニモ自分デ銀行業者  
 ノ寄り合ニモ申シマシタガ、銀行ノ如キ商売ハ自分ノ資本デ自分デ経  
 営スル、自己ダケデ資本ガ沢山アレバ繁昌スル、発達ガ出来ルカノヤ  
 ウニ思フカナレド、是ハ大ナル誤解デアリマス、**銀行家ノ如キハ他ノ**  
**相扶ケヲ受ケテ初メテ商売ノ出来ルモノデアアル**、其周開即チ御得意ガ  
 益々繁昌セネバ決シテ銀行ガ繁昌スルモノデハナイ、例ヘバ農業ヲ視  
 テモサウデス、自己ノ耕作物ガ、他ノ商売ガ繁昌シ、他ノ工業ガ進歩  
 シテ能ク売レルニ於テ、初メテ其農業ノ利益ヲ生ズル、**凡テ世ノ中ハ**  
**相持ツテ進テ往クモノデアリマス**、故ニ仏法ハ四ツノ恩ノ中ニ衆生ノ  
 恩ト云フモノヲ数ヘ入レテアリマス位ニ、何ウシテモ人ハ孤生スルモ  
 ノデアアリマセヌ、独リテ育テ生キテ往クモノデアアリマセヌ、此道  
 理カラ考ヘテ見テモ、理想ト云フモノハ唯自己ノ幸福自己ノ便宜ノミ  
 ヲ理想トスベキモノデアアリマセヌ、又ソレデハ決シテ其自身ニモ完  
 全ニ発達シ得ルモノデハナイト申スコトハ、殆ド明カナ事ダト思ヒマ

22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

第一国立銀行の創設



明治六年(1873年) 渋沢は自ら設立を指導した第一国立銀行(後の第一銀行、第一勧業銀行、現みずほ銀行)の総監役に就任する。大株主の三井組、小野組の頭取2名の上に立って、日本最初の銀行の創業を担った。

1 ス、故ニ此人タルモノ、先ヅ第一ニ立ツル理想、其理想ノ重要ナ所ハ  
 2 必ズ自己ノ利益ノミデナシニ、或ハ地方ニ在ラバ其地方ノ幸福、広ク  
 3 言ヘバ国家、第一ニ他愛ノ心ヲ理想ト致シテ進テ往クト云フ事ガ最モ  
 4 必要ダラウト思ヒマス、而シテ必ズ他ヲ愛スル、他ノ為メヲ図ルト云  
 5 フコトガ結局自己ノ為メヲ図ル訳ニ相成ル、私ハ普断道德ト経済トハ  
 6 必ズ一致スルト云フコトヲ主義トシテ居リマス、銀行業者ナドハ兎角  
 7 道德的ノ経営ハ出来得マジキモノ、如ク、昔カラ言ヒ做サレテ、悪ク  
 8 申セバ高利貸ニモナル、斯ウ云フ性質ノ業態ニ必ズ道德ト経済トガ一  
 9 致スルト云フコトヲ申シマシタガ為ニ、従来ノ有様カラ言フト、余リ  
 10 迂遠ナ、高尚ナ説ヲ言フト人ニ評サレタ位デゴザイマシタガ、併シ長  
 11 イ経営カラ自身デ考ヘテ見マスルト、決シテソレガ過ツテ居ラス、果  
 12 シテ人ノ為メヲ思フ経営ガ必ズ自家ノ仕合セヲ為シテ来ルト云フコト  
 13 ハ事實ニ於テ明カデアリマス、故ニ先ヅ立テル理想ノ中ニ、必ズ理想  
 14 ト云フモノハ自己ノ利益ノミヲ第一トセヌ理想ト云フモノガ最モ肝要  
 15 デアルト云フコトヲ、理想ヲ立アルト同時ニ覚悟致シタイト思フノデ  
 16 アリマス、第二ニ申シタイトハ、青年ハ——ト許リテハアリマセヌ、  
 17 是モ総テノ人ニ対シテ申シテ良イノデアリマスガ、其時代ヲ能ク知ル  
 18 ト云フコトヲ、是ガ甚ダ肝要デゴザイマス、其時ハ何ウ云フ時デア  
 19 カト云フコトヲ詳カニ知ル、ムヅカシイ言葉デ申スト「哲人機ヲ知ル  
 20 之ヲ思ヒニ誠ニス」ト云フ句ガアリマスガ、機ヲ知ルト云フコトハ即  
 21 チ其時期ヲ察スルノデアリマシテ、時代ト云フモノハ追々ニ変化シテ  
 22 往クモノデアリマス、何時モ同じ有様デハ居リマセヌ、是ハ人ガ団子

1 ヲ食ベルト彼岸ダト思フ、牡丹餅ヲ食ベルト盆ダト思フト云フダケノ  
 2 唯心無シニ経過スルト云フコトハ、是ハ機ヲ知ルノデハナイノデアリ  
 3 マス、時代ノ変化ヲ能ク察知スルト云フコトハ、広イ言葉デ言フト、  
 4 即チ天下ヲ計略スルニモ機ヲ知ラネバ往カヌガ、又極グ小サイ言葉デ  
 5 言フト、麦ヲ蒔クニモ時ヲ知ラナケレバナラス、蚕児ヲ養フニモ八十  
 6 八夜モ来タカラ種子ガ青ンデ来タト云フ考ヘヲ持タナケレバナラス、  
 7 此日常ノ場合ニ時ヲ知ルト云フ必要ガアリマスガ、私ハ唯時計ヲ見テ  
 8 時ヲ知レ、時間ヲ知レト云フノデハナイノデアリマス、今ノ時代ハ何  
 9 ウ云フ有様デアアルカト云フ事ハ、大ナリ小ナリ総テノ方面ニ能ク之ヲ  
 10 注意セネバナラスモノデゴザイマス、御集マリノ皆様ノ多クハ実業界  
 11 ノ諸君デオ出デ為サルダラウト思ヒマスガ、日本ノ実業ノ変化ノ有様  
 12 ヲ茲ニ概略申上ルト、御維新ノ初メト今日トハ実ニ大ナル変化ヲ為シ  
 13 テ居リマス、商業工業ニ於テハ欧羅巴・亜米利加ノ風習ヲ学ブヤウニ  
 14 相成リマシテ、全ク時代ガ変化致シタト申シテモ宜イノデアリマス、  
 15 此世ノ中ニ事業ヲ経営スル時ニハ、是非此時代ハ何ウ云フ時カト云フ  
 16 コトヲ知ツテ、ソレニ応ズルヤウニシテ働ラク、サウセザレバ必ズ其  
 17 宜シキヲ得ル事ハ出来マセヌモノデゴザイマス、故ニ若イオ方ノ今ノ  
 18 理想ヲ以テ世ニ立ツニハ、何ウシテモ今ノ時代ガ如何ナル時代デア  
 19 カト云フコトヲ知ルノガ最モ肝要デア  
 20 デアルカト云フト、是ハ最モ喜ブベキ、又憂フベキ時代ニ在ルト云フ  
 21 コトヲ諸君ハ、御記憶アリタイト思ヒマス、其喜ブベキ訳ハ何ウカト  
 22 云フト、此欧羅巴ノ大戦乱ハ従来ノ日本ノ段々欧米ニ学ンデ工業・商

唯心ウイシンニすべての事物・  
現象は、心の働きのよ  
ってあらわれたもの。

1 売ノ進歩シテ来タ、彼等ノ盛ナ時ニハ此方ガ進モウトスルト、向フカ  
 2 ラ押コクツテ来テ彼等ト相闘ツテ居ツタノガ、彼ニ不幸我レニ幸ヒ、  
 3 向フガ戦争ノ為ニ商工業ノ進歩ハ停滞シテ参ツタ処カラシテ、甚ダ有  
 4 様ガ変化シテ、始終輸入ニ憂ヒテ居ツタ日本ガ輸出勝ニナリ、各種ノ  
 5 工業モ寧口歐羅巴ニ輸出スルヤウニ進デ参リマシタ、マア此事ニ就イ  
 6 テ或ル種類ニハ実ニ意外ナル、利益ヲ得テ喜ビヲ以テ迎ヘテ居ル人ガ  
 7 多イヤウデゴザイマス、去リナガラ是ハ必ズ又変化スルモノデアルト  
 8 云フコトヲ覚悟セネバナラヌノデス、戦争ノ終熄シタ曉ハ何ウ云フ有  
 9 様ニ変化シテ来ルカト云フコトガ今日ニ於テ大ニ注意セネバナラヌ、  
 10 即チ現在ノ輸出入ノ順調ニナルトカ、或ハ正貨ガ沢山ニアルトカ、品  
 11 物ガ沢山ニ高ク売レルトカ云フ喜ビハ、如何ニ変化スルカト云フ事ヲ  
 12 何ウシテモ今日覚悟セネバナラヌ時代ニ相成ツテ居リマス、独リ今ノ  
 13 戦争關係ノ時機ヲ觀察スル許リデハアリマセヌ、他ノ事物ニ就イテモ  
 14 総テ時代ニ能ク応ズルヤウナ考ヘヲ持チマセヌト、縦令良イ理想ヲ持  
 15 ツテ居ツテモ、其理想ガ首尾良ク往キマセヌトカ、或ハ大ナル過チヲ  
 16 生ズルト云フ事ガアルモノデアリマス、故ニ青年ノ世ニ立ツニハ第一  
 17 ニ理想ヲ立テル事ガ必要、第二ニ其時機ヲ知ルノガ必要ダト云フコト  
 18 ガ最モ御注意為サルベキモノト考ヘマス、更ニ今一ツ私ハ青年ノ諸君  
 19 ニ最モ重要ナ事ヲ茲ニ申上ゲテ置キタイト思フノハ即チ言行ガ一致ス  
 20 ルト云フコトデアリマス、言フ事ト行フ事ガ必ズ一致スルノデス、言  
 21 フハ易クシテ行フハ難シト云フコトハ、昔カラ人ノ訓ヘテ居ル処デゴ  
 22 ザイマスケレドモ、ソレハ今日デモ尚其通り、孔子ノ教ヘニモ「言ニ

六〇二

1 訥ニシテ行ニ敏ナラン事ヲ欲ス、」成ルタケ言議ハ少クシテ実行ノ上  
 2 ルヤウニ心掛ケタイト訓ヘラレテアリマス、ケレドモ人ハ唯言議ノ少  
 3 クト云フテモ啞デ暮ス訳ニハ参リマセヌ、志ト云フモノハ始終自分デ  
 4 言ヒ現ハスダケノ力ヲ有タネバナラヌ、即チ言葉ハ甚ダ大切デアル、  
 5 其言葉ヲ発スルニハ勿論意ガアツテ発スルノデ、志デアアル、志ッ発ス  
 6 ルノハ言葉デ、言葉ヲ行フノハ実行デアアル、此言行ガ一ツデナケレバ  
 7 決シテ効果ヲ奏スルモノデモナシ、又人トシテ他ノ信用ヲ得ルモノデ  
 8 モナイ、事業ノ経営成功モ決シテ能クシ得ルモノデハナイト申上ゲテ  
 9 モ過言デハナイト思ヒマス、凡ソ人ノ世ニ尊ブ処ハ、何ウシテモ信用  
 10 デアリマス、アノ人ハ信用ガアル、人格ノ高イ人ダト人ニ賞讃サレル  
 11 人ハ、能ク御觀察ナサイマセ、必ズ言行ガ一致デアアル、若シ言行ヲ齟  
 12 齟スル人デアリマシタナラバ、ソレデ信用ノアルト云フ人ハ殆ド見ル  
 13 コトノ得ラレザル訳デアリマス、優レタ英雄豪傑中ニハ或ハ言フ程ニ  
 14 行ハヌ人ガ必ズナイトハ申シマセヌケレドモ、蓋シ其言行ガ甚ダ合シ  
 15 マセヌト、如何ニ偉人デアツテモ、信用ト云フ点カラハ多少欠ル処ガ  
 16 生ズルノデアリマス、故ニ言行ヲ一ニスルコトガ、私ハ青年ノ最モ注  
 17 意ヲセニヤナラヌ処ト深ク信ズルノデゴザイマス、青年ノ諸君ニ対シ  
 18 テ私ノ希望致シマスコトハ数々アラウト思ヒマス、併シ余リ多ク申上  
 19 ル程時モゴザイマセヌシ、又其事柄ヲモ茲ニ考ヘヲ有チマセヌ、唯第  
 20 一ニ、何ウシテモ人トナツテハ必ズ一ツノ理想ヲ持ツテ世ニ進ミタイ  
 21 而シテ其進ムヤ、其時代ヲ詳カニ知ル事ガ必要デアアル、又之ヲ知り、  
 22 又之ヲ進ムニ於テ言葉ト行ヒト齟齬致サヌヤウニスルノガ、甚ダ其人

齟齬ハくいちがい



